

平成 28 年度第 18 回講演会 記録

日 時	平成 28 年 1 月 17 日 (日) 13:00~16:00
会 場	此花会館 梅香殿 大ホール
講 師	三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室 主任研究員 国分 秀樹
演 題	英虞湾における里海づくり
備 考	参加者数 142名、 記録 山野 渉

先生は、漁業者と産官学が一体となった英虞湾の環境再生に取り組まれるとともに、また英虞湾の沿岸遊休地を干潟に戻すプロジェクトにも参加されて多くの実績をあげられた。現在は 鈴鹿水産研究室で 干潟藻場の再生技術の開発とそれらが海域環境や生態系に及ぼす物質循環機能について、現場観測によって研究されている。

【講演要旨】

1. 英虞湾の海域環境

明治以降、産業活動の発展に伴い、ここ英虞湾においても干潟や藻場が姿を消している。

干潟・藻場は①生物生息機能、②物質生産機能、③水質浄化(物質循環)機能、④親水機能をもつといわれており、干潟・藻場のもつ機能を具体的に観測するなどの調査研究内容をわかりやすく説明された。

英虞湾に「豊かな海」を取り戻すために、元来の流入負荷削減に加え、過去に消失した干潟・藻場を再生し、本来海域が有していた物質循環機能を取り戻し海域の生物生産を増進させることが必要である。

2. 沿岸遊休地の干潟再生への課題

英虞湾の沿岸には埋立地や干拓地が利用されず放置されている地域が多く見られる。沿岸遊休地に科学的に海水を導入することで生物の豊かな干潟へと再生することは可能である。そのためには県や市の農業、建設、水産環境部局を始め自治会、漁協などとの連携が不可欠である。また潮受け堤防の水門を開放した際の災害対策も必要。さらに干拓された農地には所有者が存在するので干潟再生を理解して頂くことが必要である。今後干潟再生の実現に向けては、統合的沿岸域管理の視点にたち、目指すべき海域像を共有し、地元住民と一体となった取り組みが必要である。

3. 志摩市の取り組み

志摩市は環境省との連携の元、地元企業に干潟再生に賛同してもらい、企業が所有する沿岸遊休地の再生に着手してもらうよう働きかけて、再生の輪が地域に広がりつつある。

【所感】

志摩市の動きは地域の活性化にとって大切な活動であり、干潟・藻場の必要性を地元の方々に理解して頂き、公的機関の協力もあって干潟・藻場の再生が実現した。このような取り組みが必要な沿岸地域はほかにたくさんあると思います。干潟・藻場を再生することは、海が豊かになり 真の里海づくりの一助となると思います。このような再生活動に積極的に協力していきたいと思いました。

ありがとうございました。

